

## 宮島 利枝子

学校名：横浜市立能見台南小学校 担当教科：5年生担任

### 1. 今回のカンボジア研修における目的やねらい

- ・開発途上国の現実や取組、日本との関わりにおける大切な点や課題について、本やTVを通しての情報だけでなく、現地で系統的に研修することによって、開発途上国への支援や日本の貿易・産業の課題について再考察する手がかりとする。
- ・人権教育として、在住外国人の問題を考える。
- ・平和教育の視点から、地雷・不発弾など子ども達に戦争の恐ろしさを伝える。
- ・子ども達がカンボジアに対し、同じアジアの国として、親しみや敬意をはらう気持ちをもてるために、カンボジアの歴史や遊び・芸能などの文化を楽しく伝えることができるようにする。

### 2. 目的やねらいの達成度

- \*今回が初めてのカンボジア訪問なので、今後の取り組みへのきっかけとなればよいと考えていた。その意味では120%の達成が得られたと言っても言い過ぎではないように感じる。
- ・訪問先のいくつかのNGOの働きを実際に知り、当事国主導の重要性や支援団体同士の連携の重要性について深く学ばせられた。
- ・カンボジアをいろいろな側面から見ることができ、在日カンボジア人の課題について考えを多少とも深めることができた。
- ・今回どこを訪れても、至る所が内戦の傷跡であった。今も続く戦争の恐ろしさを実感した。
- ・東南アジアにあればほど強大な王国が存在したことを改めて知り、私たちの歴史の学び方を考えた。

### 3. カンボジアから学んだこと

- ・子ども達の笑顔の原点、生きる力の原点に出会えたような気がする。少なくとも今、平和の時にあるカンボジアの子ども達にはエネルギーがあった。
- ・本当の豊かさとは何だろうか、今の生活を振り替えさせられた。
- ・カンボジアの歴史の一端を知り、伝統保存の重要性を考えることができた。
- ・援助に際しては、援助される側の気持ちや立場、そして将来を考えることの大切さ、支援団体同士の横のつながりの重要性を強く学んだ。
- ・グッドガバナンスという言葉について理解を深め、法治国家のあり方を考えることができた。

### 4. 研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

- \*今回の出会いが始まり
- ・今回出会った方々との継続的な関わりの中で、カンボジアに対する理解を深められるようにする。
- ・具体的かつ必要とされている支援についていくつか出会うことができ、実践していきたい。
- ・子ども達への平和教育によりリアルな感覚を与えられることを確信している。
- ・治水・稲作・野菜作り等産業のあり方や歴史や文化を通して、同じアジアの国としての共通点や異文化への興味・敬意を育てるための教材が得られた。

### 5. 研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の教師海外研修については、本当に学ぶところが多かった。スケジュールが詰まっていた点についてかなり心配もされていたようだったが、カンボジアのすべてが初めての私にとっては、今後自分の活動方向を考える上での視点を多く与えられたわけで、大変良かった。

あえて言えばやはり、「振り返り」の時間を、車内でというだけでなく（近くに座った方々とは感

想を言い合い深め合うことができたが)夕飯を囲む中などで、しっかりともてたら良かったかもしれない。実際に意図を持ってスケジュールを組んでくださった小川さん(JICAカンボジア事務所)を囲んでの時間をより大切にできればよかったかとも思う。

#### 6. その他研修全般を通じての感想・意見など

事前研修については、開発教育について学習を深めることができ、大変良かったと思う。また、いろいろな人と出会えたので、「今後自分が活動していく中で、共に学んでいける関係が欲しい」という、研修参加目的のひとつは達成されたように思う。

さらにいえば、海外研修が研修の山と言うより、研修の端緒と感じた私にとっては、事後研修の充実が課題となっている。

#### 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス等

学校でたくさんの人達に大変有意義な研修であることを伝えている。自分の課題が既にしっかりとある場合もあるだろうが、本研修によって視野が広げられるという柔軟さをもって臨むことの大切さを感じた。研修プログラムそのものから学べることも多いし、また、参加者相互の意見交換から学べることも計り知れずあるからである。

それとは別に、海外研修ではやはり、私たちが言われたとおり、自分はこれだけは学んでこようというポイントをしっかりともってのぞまないと、スケジュールに押されてしまうかもしれない。

